日本フィルハーモニー交響楽団　第九特別演奏会 2019

合唱共演

2019 年 12 月 14 日　横浜みなとみらいホール

恒例となった年末の「第九」。2019 年の日本フィルハーモニー交響楽団の公演回数は、なんと 7 回。その内、12/14・12/21（横浜みなとみらいホール）、12/24（東京芸術劇場）の 3 公演の合唱を本学学生が務めた。

▲ 写真は 12/14 の公演。指揮は広上淳一教授、ソプラノは中村恵理講師。

なお来年度は、すでに複数の合唱共演の話がいくつかの団体から来ているという。近年ますます本学合唱の評価が高まってきている。

出演学生の声

津田雛子さん（声楽演奏家コース 4 年）

ホールの空気が一体となるような感覚を持ち、集中した演奏だったのではないかと思います。歌っているとき、プロのオーケストラの方々と楽しく演奏するというより、オーケストラの繊細なハーモニー

といっしょに喜びを作り上げていこう ― その場にいるすべての人と、この気持ちを共有しようという思いが強かったです。また合唱の配置が、男声後方・女声前方といつもとは違う並びで、後ろからはっきりと聞こえる低音に声を乗せていくのは、とても不思議な感覚でした。

ベートーヴェンの作った世界に入り込めたこと、プロのオーケストラと共演できたこと、とてもよい経験となりました。

小林雄太さん（指揮３年）

指揮の指導を広上淳一先生から受けています。広上先生指揮の合唱の本番に乗るのは今回はじめてでした。すべてのリハーサルに参加し、ていねいでわかりやすく、しかし眼から鱗のユニークなお話の数々には心を打たれました。

本番では満員のお客さまの前で、リハーサル以上の「音楽の本質」をわれわれ合唱団は出せたのではないかと思います。

合唱のメンバーとして参加して、広上先生が指揮されるこの本番で、音楽というものは正解がなく、さまざまな可能性があることを改めて知りました。指揮者として守りに入らず、今後はどんなことにも果敢に挑戦しようと思いました。

すばらしいソリスト、オーケストラの方々、そして広上先生と第九交響曲を演奏することができて幸せでした。またひとつすてきな思い出ができました。

広報課